

令和4年度 愛知県立時習館高等学校 学校評価結果

本年度の重点目標		挑む時習館 ～高き志と果敢の挑戦～	
担当	重点目標	具体的方策	総合評価
総務部	(1)生徒、保護者の防災意識をより高める。 (2)災害時等における教職員の初動体制を明確にする。 (3)家庭と学校との連絡方法の新しい方法(時習館安心メール)の導入・普及がスムーズに行われる。	(1)生徒による「防災・減災だより」の作成等、生徒が情報を発信し防災意識の向上を図る。 (2)教職員が学校安全マニュアルを折に触れて読むよう、職員会議などの場で声をかける。 防災訓練時に速やかに動けるよう、理解を呼びかける。 (3)「時習館高校安心メール」の双方向化実現により、登録率の向上及び活用方法の研究を進める。	第3回防災訓練のシェイクアウト訓練では、生徒への予告なしで訓練を実施し、実践に近い形で取り組んだ。どの訓練も生徒は真剣に取り組み、実践に備えた。災害時や避難訓練時に速やかに行動ができたことと評価できる。訓練の度に発行された「防災・減災だより」は、生徒防災委員が毎回説明を加えることで、興味、関心を持って読むことができた。「時習館高校安心メール」の使用はまだ全校生徒ではないものの、おおむねスムーズにできるようになったと見受けられる。
教務部	(1)時習館高校の未来を見据え、本校にふさわしい新教育課程の実施と改善を図る。 (2)教職員が一致協力して生徒の指導にあたるように、継続して内規の整備にあたる。	(1)今年度から始まった教育課程について、実施した実情とカリキュラムを照らし合わせ、次年度以降に反映させる。また、実施して分かった改善点や工夫する点などをデータとして蓄積する。 (2)近年の状況に適合した内容となるよう、内規を検証し、整備する。	昨年度作成した教育課程について、大学入試の情報を考慮に入れながら、変更の必要性があるかどうか検討するなど、時代に合わせた柔軟な対応ができた。その過程において、昨年度創設した教科主任会を活用することで、各教科の意見を幅広く取り入れる体制ができた。内規についても、必要な改正を行うことができた。
生徒部	(1)品位ある身だしなみを心掛け、責任ある行動がとれる生徒を育成する。 (2)遅刻指数1%未満を目指す。 (3)交通安全や交通マナーの遵守を徹底する。 (4)教育相談の充実を図り、不登校生徒数を1%未満に抑える。 (5)学校行事・部活動・ボランティア活動などに積極的に取り組むことのできる生徒を育成する。	(1)身だしなみ指導、立ち番指導などの充実と情報モラルの実践を促すことで、生徒の意識の向上を図る。 (2)担任との連絡を密に取り、生徒の精神状態や遅刻の要因を考察し、遅刻の防止に努める。 (3)生徒への啓発活動を工夫し、命の大切さを理解させ、交通マナーを守らせる。 (4)H・SRT委員会や教育相談の充実を図り、いじめの未然防止や早期発見に努めるとともに、多様な問題を抱えている生徒への理解を深める。 (5)行事を運営する生徒への声かけ、部連会や激励会の開催、各種ボランティア事業の広報を通して生徒が積極的に参加できる土壌を整備する。	身だしなみについては、教職員の共通理解と一致団結のもと、どの学年の生徒も概ねきちんとした身なりで、落ち着いた学校生活を送ることができた。また保護者の評価も高く、制服の着こなしに関する家庭での理解と協力が得られていると考えられる。交通マナー遵守については、立番時の指導や校外での見回り指導により成果がみられた。特別活動においては、生徒会行事全般について参加意識の高さが見られた。
進路指導部	1年 将来を見通して、高い進路目標を築き上げさせる。 2年 高い進路目標を設定し、その希望を持続させ、意欲的に学習に取り組ませる。 3年 自分の進路希望を明確にさせ、最後まで志望を貫き通す姿勢を保持させる。	1年 一人一人の特性をつかみ、文理選択をはじめとした、将来の目標や希望を尊重した進路目標を主体的に設定させ、その実現に有効な志望学部・大学を決めさせる。 2年 進路行事(進路講演会、学部・学科および大学別説明会)や担任面接などを通して、高い進路目標を維持させる。 3年 学年会と連携して、志望校に挑戦し続けるよう指導する。日々の授業が強固な学習基盤となるように、進路講話や補講・学習会、大学別の説明会でやる気を喚起する。	模試、補講・学習会、外部講師による進路講演会を実施するだけでなく、各学年でも工夫し、学年集会や資料配布など行った。卒業生による進路説明会や大学説明会は、参加した生徒から好評であり、卒業後の進路目標や高校在学中の過ごし方など、今後の行動を見つめ直すよい機会となった。しかしアンケートの結果からは、多くの項目で昨年度よりも評価を下げる結果となった。情報提供の仕方を再検討し、取組内容が生徒・保護者・外部評価者に伝わるようにしていきたい。
保健部	(1)健康・安全面に留意して学校管理下(授業・部活動・学校行事)の事故・怪我の減少を目指す。 (2)各委員会活動(保健・美化・緑化)の充実を目指し、生徒の自主的な活動の促進に努める。 (3)校内の環境衛生活動において、感染症の予防や環境衛生、美化・緑化活動を進めていく。	(1)事故と怪我の実態を把握し、その原因を究明し、減少を目指していく。 (2)委員会の活動を定期的に行い、生徒の自主的な活動を広げさせる。 (3)感染症予防の対策、校内美化・緑化活動において委員会活動を通じて、環境の改善を図る。	目標達成に向けて生徒・職員で協力をしてきた。今年度のアンケート結果や実績から考えると、一定の評価をしていただけたものと感じる。引き続き3つの目標を掲げ、その目標の達成を図っていきたい。今年度の反省・評価を踏まえ、学校管理下における生徒の健康や安全、環境美化・整備、健康の保持増進を学校全体として考えていきたい。生徒・職員の心身が健康で校内が持続可能な環境となるように環境美化・整備に努めたい。

図書情報部	<p>(1)読書活動の推進を図る。 (2)1人1台タブレット体制の円滑な導入と、授業での利用促進のための環境整備を行う。</p>	<p>(1)図書館だより、図書館報「学而」、図書委員による企画等によって読書活動の推進を図る。 (2)タブレットの保守管理と活用推進のためのルール作りと、教員のスキルアップのための研修を行う。</p>	<p>個人ブースを設けることで来館者は確実に増えたが、貸出数の増加にはつながっていない。図書委員を使った企画など、本を借りるきっかけづくりをしていきたい。タブレットを使った授業を取り入れることは難しいが、今後も研修を通じて啓発を行っていききたい。ホームページで情報を各方面から求められているが、図書情報部としてはWEBにアップできるようなシステムは構築するので、各分掌や学年などから外部に発信したい情報を選別することをして欲しい。</p>
探究推進部	<p>(1)各探究科目の指導体制を点検・整備し、探究活動における「全職員指導体制」の実現を図る。 (2)SSH・AGHの諸事業の成果を地域に普及させる方策を検討し、実行する。</p>	<p>(1)探究推進部にて、各科目の指導内容とSSH・AGH事業を通して育てたい生徒像との関連性を検証し、生徒にそれを伝えられるようにすることを目標に、担当教員間での認識の共有に努める。 (2)「時習館サイエンスフェスタ」や成果発表会等の行事、ホームページやYouTubeアカウント等を活用し、本校の科学・グローバル・探究教育のノウハウを近隣の小・中・高等学校と積極的に共有する。</p>	<p>SSH・AGHともに教職員・生徒の評価は高水準である。校内ではSSH・AGHの取り組みが充実し、多くの先生方に協力していただくことで運営できている。しかし、昨年度同様、保護者や外部への取り組みの普及ができていないという結果が示された。地域への成果の普及・還元はⅢ期SSHの重点目標の一つである。成果の普及を見直す案として、ホームページの内容を整理・精選することや、教職員により各事業を周知してもらうことが考えられる。SSH・AGH事業の自走化を実現していくためには、校内からの発信源を増やし、多くの方々に本校の取り組みを還元していく必要があると考える。</p>
1年学年会	<p>(1)時習館高校の生徒として相応しい基本的な生活習慣、学習習慣を身につけさせる。 (2)自らの行動を振り返り、主体的に自分の課題を発見し、その解決策を考察できるようにする。</p>	<p>(1)学校での生活指導、学習指導を通じ、日々の学校生活で、心身の健康状態が高く保たれ、継続的な学習習慣が身につくよう支援する。 (2)学習、各種行事、SSH・AGH事業などを通じ、学習目的を明確にし、生徒自身がさまざまなことに興味をもって、主体的に取り組めるように支援する。</p>	<p>学年全体として、生徒たちの心身の健康度は高めであり、学校行事に積極的に参加する様子や各種取り組みからも学校生活が充実していることがうかがえる。学習活動や部活動、その他の校外活動でコロナ禍以前のような実施が増えていく中、生徒一人一人が授業だけでなく、家庭学習時間をしっかり確保することが進路実現にもつながっていくはずである。生徒たちが心身の健康状態を高く保ち、自らの行動を振り返り、学習事項習得につながるような意識づけを今後も行っていきたい。</p>
2年学年会	<p>(1)自分の将来について主体的に考え、自律して行動できるような生徒集団を育てる。 (2)時習館高校の中心学年として、規範となるような生活習慣、学習習慣を身につけさせる。</p>	<p>(1)授業や行事、日常生活のあらゆる場面で生徒と関わり、生徒の主体性や自主性を伸ばしていくように支援する。進路目標を掲げ、その実現に向けた学習に、高い意識を持って意欲的に取り組ませる。 (2)健康を維持できるような生活リズムを整えさせ、授業、部活、行事に積極的に取り組むことができる習慣を確立させる。また、その習慣を確立できるように生徒が生徒自身で考えて使うことのできる時間を確保できるように配慮する。</p>	<p>生徒は、学校を信頼し、学校や教員を向いて生活している。これは、76回生の生徒が元々持っていた気質と、学年団の先生方の真摯な取り組みの相乗効果の結果であると感じる。学校評価アンケートに関しても、「先生方の考え方はよく分かる」「先生は情熱や熱意をもって仕事にあたっている」「分かりやすい授業」等の項目で昨年に対して評価が上がっている。学年としては「脱・例年通り」を掲げ、「自律・自考・自成」の指導目標のもと、生徒の主体性や自主性を伸ばしていくように支援していくことができた。しかし、まだ進路や学習に不安を持っている生徒はいるので、次年度以降も生徒に向き合い、情報を共有し、不安を解消していきたい。</p>
3年学年会	<p>(1)最上級生としての自覚を持ち、模範的な生活態度を体現できるよう意識させるとともに、社会に生きるために必要な資質を身に付けさせる。 (2)高い進路目標を設定し、その実現のために最後まで粘り強く努力し、妥協せず挑戦することのできる生徒を育成する。</p>	<p>(1)学年団全体で育てたい生徒像や指導方針を共有し、最高学年としての自覚のもと、場に応じた行動がとれるよう継続的に指導を行う。 (2)面接等を通じ、生徒の進路目標実現のための適切な助言及び指導を行う。また、計画的に学習指導を行い、生徒が自律的かつ計画的に学習に取り組む能力を育成する。</p>	<p>高い志を持ち、それに挑戦する指導を継続することができた。学年集会、クラスLT、個人面接など様々な場面で、第一志望を貫くことや、全員で受験に挑む心構えを伝えることができた。授業を中心とした学習態度を常に呼びかけ、学習会、共通テスト特訓・リハールにも学年のほとんどの生徒が参加するなど、75回生の団結力をもって進むことができた。 入学時からコロナ禍に見舞われた学年であったが、常に前向きに、向上心をもって学校生活を送ることができた。日々の学習に取り組む姿勢や部活動、時習祭などで後輩たちの範となる姿勢を示し、挑戦を応援される最高学年になることができた。</p>